令和7年度学校自己評価

＜評価　A:達成　B:概ね達成　C:不十分＞　　83豊科高等学校

学校教育方針	中・長期目標
人間尊重の基盤に立って、学習を深め、心身ともに健全で情操豊かな人間形成を目指す。そのために、本校を取り巻く地域社会の特質と生徒の実態をふまえて、次の項目に重点を置く 1. 自主性・積極性を育てる。 2. 学力・気力・体力の充実向上をはかる。 3. 連帯感を培い、社会性を養う。	1　健全でバランス感覚に優れ、自ら考え自ら行動することができ、地域社会へ貢献できるような生徒の育成をはかる ①　幅広い教養を身につけた生徒 ②　学校における諸活動に意欲的に取り組むことができる生徒 ③ 清掃・挨拶がしっかりできる、礼儀正しく、基本的な生活習慣の身についた生徒 2　自らの強い意志で将来の進路開拓に臨む生徒の育成 ① 知的好奇心が豊かで、積極的に自らの学力を高め進路を実現しようとする生徒 ② 体験入学、企業体験、ボランティア活動などに積極的に取り組み、進路実現に意欲的な生徒

今年度の重点目標	評価	成果と課題・改善策
1　学習活動を柱とした学校生活における諸活動に意欲的に取り組み、自己の進路実現に向けて努力する生徒を育てる 2　基本的な生活習慣が身につき、挨拶や清掃に積極的に取り組める生徒を育てるとともに、いじめや体罰のない安心かつ安全な学校づくりに務める 3　総合的な探究の時間や各教科での探究的な学びを通じて、自己および社会の課題に気づき、それらの解決に向けて地域とつながりながら自主的かつ協働的に取り組むことができる生徒を育てる	B	1　日々の授業や補習に継続して粘り強く取り組んだり、生徒会活動や部活動に主体的に参加したりしてきた生徒の進路希望が叶えられるように、3学年と進路指導部を中心に、職員が一丸となって支援することができた。 2　多くの生徒が基本的生活習慣を身に着け、落ち着いた校風を維持している。一方で、授業の遅刻や欠課が目立つ生徒も一定数存在するので、引き続き家庭との連絡を密にし、自立に向けた支援をしていきたい。また、教職員自身がいじめの早期発見・対応ができる感性を、職員研修や日々の事例の中で高めていきたい。 3　総合的な探究の時間や各教科での探究的な学びを通して課題を解決する力をつけている。その力を多様な入試形態で発揮し、進路実現につなげる生徒が出てきている。3年間を通じて、地域と連携していく取り組みをさらに進めていきたい。

学年	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
1学年	生徒一人一人が自分自身を見つめ、自分の進路について具体的に考え、取り組みができるように援助する。	1	1、生徒の自己肯定感を向上させ、将来の可能性を広げられるような指導やアドバイスができたか。 2、学習習慣の定着に向けて適切な指導やアドバイスができたか。	B	進路希望調査・教育実習生の話を聞く会・文理選択説明会・希望進路ごとのガイダンス・希望する学校の見学・配信による進路講話・学年通信による進路状況の提供、職業ガイダンス等を行い、進路について考えさせることはできた。さらに主体的に考えさせられるようにしていきたい。
	基本的な生活習慣を確立させる	2	学校生活の基礎となる生活習慣の確立、実行ができるように適切な指導ができたか。	B	週末課題の習慣化を行っているが、学習習慣が定着しない生徒がいる。就寝時刻が遅いなどまだ生活習慣が確立できていない生徒は見られる。基本的な生活習慣の確立について引き続き支援したい。
	いじめのない安心かつ安全な学校づくりに努める	2	他者を尊重した人間関係を築くための援助や指導ができたか。	B	HR等を通じて人権等について投げかけ考えさせてきた。学年合同LHRにて人権講話を行った。さらに配慮していきたい。
	1、授業を通してICT等を活用しながら、自ら考え行動できる生徒を育てる。 2、学年会を通じ、こまめに情報を共有する。	3	1、生徒が自ら考え、行動する機会をつくり、適切に支援できたか。 2、学年会で連絡を取り合い、連携して対応することができたか。	B	1　ICTを活用する場面は増えてきたが、生徒自身が自主性を持って行動できるように促す余地はまだあると考える。2　各種会議を通じ、生徒の様子を共有し必要な場合には対策を講じてきた。さらに情報共有を行い、自ら考えて行動できるように手立てを考えていきたい。

2学年	生徒の個性を生かした適切な学習支援と、適性を生かせる進路指導に努める。	1	進路希望の実現に向けた準備として、個々の生徒に対しての学習支援や進路指導が具体的にできたか。	A	進路に応じた進路ガイダンスや、個人面接等で個々に学習支援・進路支援を行った。また、探究学習では、一人一人の生徒が興味関心に沿って学べるよう小グループに分かれて支援した。
	基本的な生活習慣を確立させる。また、自主的・自発的な行動を促す。	2	生活習慣を確立させ、継続できるように、具体的アドバイスを発信して適切な指導を行えたか。	B	折々での声がけや学年通信等を通じて生活習慣について指導した。基本的な生活習慣が確立できていない生徒も見受けられ、引き続き支援していく。生徒会活動では、新たに役員となり自覚を持って活動している。全生徒にこのような姿勢が行き渡るよう支援していきたい。
	いじめのない安心かつ安全な学校づくりに努める	2	生徒のSOSをタイムリーに把握し、対応ができたか。そのために適切な連携を図ることができたか。 また、機会を捉えて、その都度、啓発活動をすることができたか。	A	生徒指導部や担任・学年団で生徒の様子を共有しながら、特に心配な生徒について個々の状況を把握しつつ、保護者の意向も確認しながら適切に対応できた。
	授業を通してICT等を活用しながら、自ら考え行動できる生徒を育てる。	3	ICT機器を効果的に使用し、生徒が自ら考え、行動する機会をつくり、適切に支援できたか。	B	タブレットを利用しての活動が日常的になり、情報を発信したり、授業等で生徒同士や教員とやり取りすることが当たり前になった。ただ、自主性と言う点では、さらなる活用の工夫が必要である。
3学年	自己の進路実現	1	高校生活の総括として部活動や生徒会活動を充実させ、生徒自身の進路について明確な目標を持たせることができ、その実現のために必要な進路指導と学習指導をおこなうことができたか。	A	1学期個人面談や進路ガイダンス、模試等を通して、具体的な進路に向けて早めに動けるよう指導した。総合型選抜からの挑戦者が多く、周囲への刺激にもなり、早くから先生方へ面談や小論文指導に伺う生徒が増え、進路に向かって頑張れる雰囲気を作ることができた。探究活動をいかに自身の進路とリンクさせていけるかが、今後の豊科高校の課題だと感じる。
	基本的な生活習慣の継続と安心安全な学校づくり	2	卒業後を見据え、社会で生きていくために必要とされる基本的な生活習慣を確認し継続させ、他者を尊重した人間関係を築く力をつけられるような指導や援助ができたか。	A	多くの生徒は挨拶、清掃などきちんと学校生活を送れていたが、スマホ・タブレットの扱いについて指導することもあった。3年生だからと安心するのではなく、折々で指導していく必要がある。 安心できる環境づくりがある程度できたからか、本学年は不登校生徒が少なく、1人も欠けずに卒業を迎えるクラスもある。元気に最後まで登校できるよう支援を続けたい。
	教育課題への取り組み	3	ICTのさらなる活用を図り、あらゆる場面で探究的に学ぶことを通して、多様化する社会に対応できる力をつけられるように指導できたか。	B	ICTについては、探究活動はじめ各教科で活用されている。しかし、AIが一般に普及する中で、何をどう活用できるのか、教員側も知識技能を身につけていく必要がある。
	高校生活の総まとめ	1・2	豊科高校最上級生としての自覚を持ち、自分の役割や立場を自ら考え、様々な行事に自主的かつ積極的に参加できるように導くことができたか。また後輩たちへの関わりも含め、自己の成長を促すことができたか。	A	学校行事では、生徒会役員を中心に各部署で先頭に立って活動できた。また、様々な機会をとらえて海外短期留学に挑戦した者が多く(6名)、学年のみならず学校全体への刺激となった。比較的不登校生徒が少なく、元気に登校できたのは、生徒たちの頑張りがあったからだと感じる。 卒業式の学年合唱で、この学年の成長した姿を披露できるよう、最後まで見守りたい。

部名称	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
教務	生徒が安全で安心した学校生活を送れるように配慮する。そのため情報共有に必要な校内ネットワークを再構築する。	2	生徒が日常生活を順調に送れるための、細やかな情報提供や心配りができたか。	A	随時、必要に応じた情報提供を、掲示・放送・オクレンジャー等を利用しておこなってきた。教員共有フォルダ内には、日課や雛型等を入れ、特に担任の先生方が必要な時にアクセスできるようにし、生徒への情報提供がより正確にできるよう努めた。
		3	危機管理を徹底し、戸惑うことなく緊急の対応がなされたか。また、オクレンジャーを効果的に用いて保護者への連絡が徹底できたか。	A	オクレンジャーの活用により、これまで以上に生徒の動静を把握することが可能となった。保護者への連絡についても、これまで以上に、より迅速に、正確に伝えられるようになったと思われる。
		3	職員間で正しく情報共有する手段を講じることができたか。	B	オクレンジャー、Teamsの有効活用により、情報共有がより確実にできるようになっている。教務からの連絡については、電子データ共有の場所を設置し、必要に応じてアクセスできるようにした。
	保護者や地域、中学生に本校の魅力を伝えられるようなホームページづくりと情報発信に心がける。	2	ホームページを利用し本校の活動状況や魅力ある話題をタイムリーに発信できたか。	A	本校の様子やお知らせを適宜発信することができた。また、適切に管理をすることができた。
		1	地域や中学生にアピールする「学校公開週間」等を内容の深いものにできたか。	B	学校説明会については、例年のように8月末に開催し、予想を上回る中学生に来ていただくことができた。本校の生徒会役員にも協力していただき、中学生には好印象を与えることができた。学校公開週間についても、予想以上の人数となった。ただ、地域へのアピールが今一つだったように思う。
	学年・部会・委員会等からの要望に迅速に対応するよう心がけ、生徒の主体的な活動を促すような学校運営をめざす。	1	各部署と連携して、生徒の主体的な活動を促すような行事などを企画・推進できたか。	A	教務主体のイベント等については、協力部署と相談をしながら進めることができた。
		2	生徒や保護者アンケートの声などを参考にしながら生徒が期待するものを発見することに心がけたか。	A	学校への要望や批判はは真摯に受け止め、可能な限り、対応すべく努力した。
進路探究学習	進路指導 「生徒の自主的・積極的なキャリア研究と進路実現」に向けた計画的な指導と助言を行う。	1	キャリア教育を体系的に運用し、生徒が自主的に自身の将来像を明確化できるように指導できたか。	A	ガイダンスやインターンシップを通して生徒の将来像確立のきっかけを作ることができた。
		1	講演会、ガイダンス等の企画運営や進路情報の収集といった生徒の進路実現のための援助が効果的に行えたか。	A	外部講師による講演会や個別指導、大学見学等を実施し、生徒の希望に合わせた進路支援が行えた。
		1	生徒、保護者、職員への適切な進路情報を効果的に伝達し、それを学校全体として共有・活用できたか。	B	オクレンジャーを活用し保護者へインターンシップ等のお知らせを発信した。様々な進路情報を教員間で共有し、学校全体として生徒の進路実現に向けて取り組みを進めたい。
	学習指導 「探究活動の計画立案、学習習慣の確立、学力の向上、ICTの有効活用」に向けた支援、助言を行う。	3	各学年の探究学習の計画立案を支援するとともに、学年間で共有する観点を検討することができたか。	A	探究学習の計画を立案し、学年間で共有することができた。新しい取組みを取り入れることもできた。
		1	学力調査の分析を行い学力,学習習慣の課題を具体化し改善策を提示できたか。	B	現状分析を踏まえて学習習慣の改善に向けた具体的な方策を提案していきたい。
		1	ICT、しなの木セミナーの有効活用を促進し多様な学びに対応できるよう改善を図ことができたか。	B	スタディサプリの導入を検討し、希望制で導入することができた。引き続き、ニーズに応じたしなの木セミナー等の活用を促進したい。
生徒指導支援	問題行動の未然防止	2	JRの不正乗車をなくすため、注意喚起することが出来たか。	C	今年度はJRから連絡があり。キセルの疑いで3件の事案について事情聴取、注意をした。自動改札（SUICA）の導入により新たな課題が生じているため対応していく必要がある。 夏季休業、年末年始休業前に「休業中の心得」を発行し注意喚起をした。
		3	生活アンケートを実施し、いじめの実態把握と対応がきちんとなされたか。	A	計画通りに生活アンケートを実施した。その結果を基に、いじめや体罰等に関する内容について、担任や学年を中心に情報を共有し対応した。
		3	写真や動画など、SNSへの不用意な投稿や誹謗、中傷などが載せられないように助言や指導ができたか。	B	今年度は問題行動として取り上げられることはなかったが、生徒たちのスマホの使用状況を考えれば、次年度も継続して助言や指導をしていく必要がある。
		2	清掃中や授業中のスマホ使用について、全職員で注意喚起することができたか。	B	休み時間と清掃時間の区別をつけさせることが必要。清掃監督者だけではなく、職員が気づいたときにその場で声をかけて指導することが望ましい。
	地域・家庭との連携	3	中学校・高等学校連絡協議会を通じて情報交換と連携が密に図れたか。	A	連絡協議会を通じて、各校との情報交換と連携はできている。
		3	PTAからのアンケートなどを活用し、生徒指導に生かすことができたか。	B	アンケートで寄せられた意見や要望については部会で共有した。問題点については柔軟に対応していきたい。
	早期対応 職員研修の充実	3	生徒への早期対応（家庭と学校、担任との連携）ができたか。 ・遅刻や欠席が多い生徒、不登校、様子の変化への声掛けと対応。（目安の日数の提示） ・生徒支援委員と教育相談の縦横の連携の確立。	A	担任が遅刻や欠席の対応をしているが、必要に応じて生徒指導支援部として協力をすることがあった。 支援の面では担任と連携をとりながら、必要な機関（SC、SSW、病院等）に繋げることができた。
		3	職員研修の充実を図れたか。（研修会・お便り・掲示物） ・校内研修の実施。 ・研修を受けた職員が校内で情報発信。	A	SCの紹介とSOSを出すことの重要性について、校内研修（4/30）を行った。次年度も4～5月の早い時期に研修会を計画していきたい。
		3	「生活アンケート」の実施と考察、その後の対応ができたか。 *（6・11月に実施予定）*	B	6月にアセス、11月に生活アンケートを実施した。いじめや不登校などの早期発見や予防に有効な方法であるため、質問項目を毎年見直しながら実施していきたい。

生徒会	生徒主体の行事の運営と魅力ある生徒会組織作り	2	各種行事の企画・運営に生徒を主体的に関わらせ、計画的に運営するように指導できたか。 生徒会活動を通じて本部役員・各正副委員長のリーダー的資質を育み、率先して全校生徒を牽引できたか。	B	・生徒達は定期的に本部会や執行部会を開き、主体的に企画し運営を進めた。各行事において暑さ対策を考える必要性が増し、豊科公民館の利用が増えている。執行部が2年生に引き継がれた後も、先輩の活動を見習いさらに良いものにしようと主体的に活動している。学年担当の先生を中心に、生徒の主体的な活動を方向付け・サポートできた。 ・生徒主体の魅力化プロジェクト「ハピネススクールプロジェクト」は、何度も話し合いを重ねて3月に実施ができる形となった。
	部活動運営の支援・方向づけ	1	運動部・文化部の充実した活動のための支援ができたか。	B	部員数の減少に伴い、部活動数の検討を行っているが、部活動顧問の割り当て及び運営の困難さは依然として課題が残る。生徒会のクラブ予算について検討中である。
保健・清整	生徒の健康状態の的確な把握と安心安全な学校作り	2・3	生徒の健康状態について職員間での共通理解を深めるとともに、健康の保持・増進をサポートすることができたか。	A	日常的に、生徒の欠席状況から感染拡大を早期に把握し、職員の協力の元に適切に対応できた。また熱中症予防への対策も講じることができた。
		2・3	生徒の委員会活動や教室・校内の環境整備を通じて、健康的に学校生活を送るための環境衛生の維持に努めることができたか。	A	委員会活動を通じて、放送での呼びかけなど生徒の主体的な取り組みが学校全体の意識向上につながった。CO2観測などを行ったり、換気を呼びかけたりすることもできた。
	校内・校外周辺の環境美化	2	学校全体で清掃活動に意欲的に取り組めたか。	A	各分担場所で日々の清掃活動が定着していた。
		2	①校内の環境美化活動を計画的に進めることができたか。	A	モップ交換やワックスがけを実施できた。また、トイレ改築に伴い清掃方法や分担場所が変わったが、的確に指示し対応することができた。
			②行事日や特別日課においても清掃活動を計画的に行えたか。	A	清掃時間を設けることで、計画的な清掃活動を行うことができた。
図書・視聴覚	資料収集と提供	1	蔵書の構成、また「探究」学習や「進路」学習のための利用をふまえた選書ができたか。	A	探究活動や進路に関する蔵書を意識して購入したり、他校・他館から取り寄せたりするなどし、学習支援ができた。
		1	日頃からの図書館の利用や貸出を促すことができたか。	A	頻繁に図書だよりや新着本紹介を出したり、委員会企画などを精力的に行ったりして、利用を促すことができた。
		1	公共図書館や他校との相互貸借ができたか。	A	必要なものについては相互貸借を行うことで、学習の支援ができた。
	教科との連携	1	各教科での授業やHR・文化祭等々で、図書館の利用が活発になされたか。	A	授業や文化祭ではよく利用していただいた。引き続き、活用を促したい。
	読書推進活動	1	図書館講座や、活字に親しむように読書旬間・朝読書などの行事が予定どおりできたか。	A	図書旬間の委員会企画や朝読書を通して、今までよりも本に興味を持つ生徒が見られた。
		1	資料の紹介・図書の推薦が適切に行われたか。	A	新着本の案内や図書委員会だより、昇降口前のホワイトボードなどで随時本の紹介ができた。
	放送委員会活動の充実	1	生徒会部と連携を取りつつ、放送委員会の活発な活動を支援できたか。	A	自主的に企画を考え、お昼の放送を充実させることができた。
	芸術鑑賞の開催	2	鑑賞マナーを守り、充実した芸術鑑賞を開催できたか。	A	鑑賞マナーもよく、音楽の持つ多様性を伝えることができた。
渉外	PTA活動の活性化	3	生徒の活動に関わり、保護者と協働して、教育活動の支援ができたか。	A	機会は限られたが、計画的に支援することができた。
	同窓会との連携		同窓会と連携して教育活動の支援ができたか。	A	引き続き、校内備品の更新など、支援をお願いしている。

委員会名称	重点項目	No.	評価の観点	評価	成果と課題・改善策
入学者選抜	確実・効率的な選抜業務の遂行		昨年の反省を活かした準備と確実な選抜業務が遂行できたか。	A	入学者選抜要項に則り適切に対応することができた。 今後も全職員の協力のもと業務に取り組んでいきたい。
将来構想	本校の将来像の具体化を目指す。	1・3	本校の現状を具体的に分析し3つの方針の具現化へ向け、グランドデザインをブラッシュアップし、多角的な観点で検討する機会を設け、教育活動に反映させることができたか。	B	グランドデザインのブラッシュアップを行った。未来の学校プロジェクトチームと連携し、育てたい生徒像についての検討ができた。本校の求める生徒像については、引き続き検討していく。
	本校の目指す生徒育成方針に沿った実践	1・3	生徒・保護者・教職員を対象としたアンケートを実施し、その結果を基にして教育活動に関する研究・研修を重ね、実践することができたか。	B	授業アンケートを2回（6月と11月）、学校評価アンケートを1回（11月）に実施した。結果をもとに、各部署で改善策を検討し実施した。
人権教育	人権意識の向上	2・3	自他の人権を尊重することの大切さや様々な人権問題について理解し、知識を深める学習ができたか。	B	全校で戦争をテーマにした映画を鑑賞した。戦後80年という節目に、戦争や特攻隊について生徒が真剣に考え、命の大切さを再確認するよい機会を提供することができた。上映時間が長かったため、計画段階でもっと工夫が必要だった。
		3	互いを認め合い、思いやる教育活動ができたか。	B	日々の学校生活を通して、互いを認め合う姿勢が育まれた。一方で、生徒一人一人が人権課題について主体的に考える機会を、さらに設けていく必要がある。
教育課程	観点別学習状況の評価について、問題点を研究し、授業改善・指導計画改善へと繋げる努力をする。	1	各教科における、評価方法・評価のタイミングなど、妥当性を有しており、それが生徒の学習改善、教師の授業改善・指導計画改善へと繋がっているか。	A	より生徒の学習到達度を計るための観点別評価の在り方について研究を進めることができた。
	生徒の多様な進路希望に対応するような教育課程を実現する。	1	2・3年生の講座別授業と生徒の多様性に応じるための選択科目が効果をあげているのか。	B	進路選択を含め、生徒の希望に即した選択科目提示および履修指導を行うことができた。生徒の進路希望傾向が変化している現状を踏まえ、選択科目の編成について見直す必要がある。
	生徒の「思考力、判断力、表現力」を伸ばす授業に向けての啓発や情報提供をおこなう。	1	新たな授業スタイルを構築することが求められるなかで、効果的な情報提供がなされているか。	B	授業公開や研究授業等の機会において相互に授業を参観し、新たな授業スタイルを模索することができた。今後も研修等を通して生徒の力を伸ばす授業の形を追求していきたい。
安全衛生	職員の安全衛生及び健康保持増進を図る。	3	職員の健康診断（人間ドック含）を全員実施が達成できたか。 ストレスチェックの受検率が対象者の80%を上回ったか。	A	職員の健康診断については、全員が受診できた。ストレスチェックの受検率は90%以上で、未受検者はごく少数にとどまった。全体的にストレスの程度が軽減されている結果となっており、良好な項目の継続を図るとともに、改善できる点に目を向けていきたい。
		3	衛生委員会を定期的に開催できたか。	A	定期的に委員会を実施し、課題の共有を図ることができた。 次年度も引き続き同様の実施を図りたい。
合宿所運営	使用規定の遵守	2	各クラブへ使用前に規定の周知を行い、スムーズに運営できたか。	A	平日・休日の利用については特に問題なく運営することができた。
ハラスメント防止対策	被害者・加害者にならないためにハラスメントの正しい理解を深める。	2	情報提供や研修等の実施を通じて、意識の向上が図られたか。	B	日常的な声がけと同僚性により未然防止に努めた。コンプライアンス委員会と連携をとりながらさらに広く職員の人権意識高揚を目指していきたい。
学校評議員校内運営	外部からの要望や提言を学校運営に活用する。	1・2・3	評議員から学校運営や教育活動について多様な意見をいただき、点検から改善に活かすことができたか。	A	年2回の評議員会のうち、第1回に生徒会役員が参加し、直接評議員の方々と対話をすることができた。地域の方々の思いを生徒自身が感じ取る大変貴重な機会となり、実際にその後の交流にも結びついた。次年度以降も是非継続していきたい。

しなの木セミナー運営	進路実現および学力向上のための支援を行う。	1	進路実現と学力向上に有効な模試、検定の設定及び補習の円滑な運営、学習アプリの活用ができたか。	B	模試、英語検定は例年通り行った。 土曜補習は参加希望者ゼロで実施しなかった。その分、スタディサプリ(リクルート)を導入し、全学年に希望者を募ったところ、63名が申込、各自学習を進めている。 次年度以降も土曜補習という形でなく、学習係と連携しながらスタディサプリの活用を拡大し、個別最適かつ効果的な自学自習への支援を拡充していきたい。
いじめ防止対策	いじめの未然防止、早期発見対応に向け、生徒指導支援部及び学年と連携して取り組む。	2	「いじめ防止対策推進法」と「生徒指導提要」に基づき、未然防止・早期発見のための職員間の連携を強化できたか。	A	いじめ見逃しゼロを目指し、生徒指導、相談係と連携して活動できた。生徒からのSOSを敏感にキャッチし、さらに未然防止と早期発見・対応に努めていきたい。
		2	「学校いじめ防止対策方針」に基づき、迅速な初期対応と適切な指導がなされたか。	A	生活アンケートや日々の訴え等から、被害者の願いに寄り添った丁寧な対応を心がけた。今後も、いじめが重大事態に発展することのないように、生徒の安全と安心を確保できる学校風土を築いていきたい。
コンプライアンス	公務員としてのコンプライアンス意識を高めるために職場全体で研修に取り組む。	3	年間を通して効果的な研修を行い、その結果として個人・職場としてのコンプライアンス意識が向上したか。	A	職員会議の冒頭等で短時間の研修を定期的に実施した。コンプライアンス遵守を日常的な指針として各自の行動規範とすることができた。来年度も引き続き同様の取組を実施する。
図書選定	資料収集と提供	1	蔵書構成や利用をふまえた選書ができたか。 探究的学習の一助となれたか。	A	学期毎発行の選定図書案内を回覧し、購入図書の選定をお願いした。また、探究活動のテーマに沿った内容の本をそろえたり、他校・他館から取り寄せるなどして、学習を支援できた。来年度からは委員会がなくなるため、各部署・教科より適切な選定・確認をお願いしたい。